

第14回 協働のまちづくり推進委員会

平成24年12月18日(火)

15:00～ 403

委員：今泉・藤田・茂田・山崎・江藤・友田・百田・浅井・谷崎・永田・井上・野田・
堀・中島・平嶋・大久保・小柳・伊藤

1. 委員長あいさつ

2. 条例の検討項目

3. 行政部分の分析について(3・4・5・6・7)

次回 開催予定 平成 年 月 日 () : ~

03.職員の対応

- 行政の行動は、顔が見えるように
- 言ったこと、書き残したことに、市長も議員も明確な責任とる
- 窓口対応が悪い、常識がない
- 不信を増長してないか
- 電話で名乗らない
- 言ったこと書き残したことに明確な責任とる
- 市長は明確な責任を負っていることを自覚すべき
- 市長も議員も責任あり
- 何でも「自治会長を通して」と言う
- 態度、もう少し柔らかく
- いきなり配属され勉強が足りてない

04.職員の資質

- 職員から納得できる回答ない
- 勉強不足である
- 少人数で多量の仕事をし、住民を交え、考えてコーディネートできる職員が必要
- 「協働【複数の主体が、何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動すること】」を答えられない。職員によって異なる

05.職員の数

- 適正な人数は？
- 職員も疲労している
- 職員が少ない
- ゼネラリスト【いろいろな分野の知識や能力をもっている人】による人材節約
- 職員退職後、地元でのボランティア活動が少ない

06.責任の所在

- 担当者の責任の所在はどの程度か

07.市長の責務、説明責任

- 市長が決断すればいいのに。しない
- 市長が悪い。
- 議員の声を無視しても平然
- →市長は安住している
- もっと自覚が欲しい。議会の報告がない。市民も安住している
- 市長は多様な市民の声を聞いて欲しい
- 顔色伺いではなく自由かつ達に
- 市長のワンマンさ(自治会制、電波条例)
- 市長が独断的、専断的
- 市長の説明不足
- 市長に直接提言(手紙)3回。これまで何の音沙汰もなし。(4年間で)最新は昨年12月観光行政について積極的な案(USBに入れた事も)
- 自治基本条例の役割が不明確、市民の声が届かない
- 自治基本条例を制定する市の姿勢が明確でない